

平成30年度進行管理・評価シート
津和野町歴史的風致維持向上計画（平成25年4月11日認定）
「最終変更平成30年3月29日」

■進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 藩校養老館保存修理事業	3
2 城下町地区照明設備等整備事業	4
3 旧城下町等サイン整備事業	5
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の復旧(津和野城跡の石垣整備)	6
2 文化財の防災対策(重伝建地区の防災計画の策定)	7
3 埋蔵文化財の取り扱い	8
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	9
⑥その他(効果等)(様式1-6)	10

■法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	11
-------------------------	-------	----

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	平成30年度 現在の状況
○事業推進のための体制整備 ○歴史的風致維持向上協議会の開催 ○津和野城山整備プロジェクトチーム(PT)の開催		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

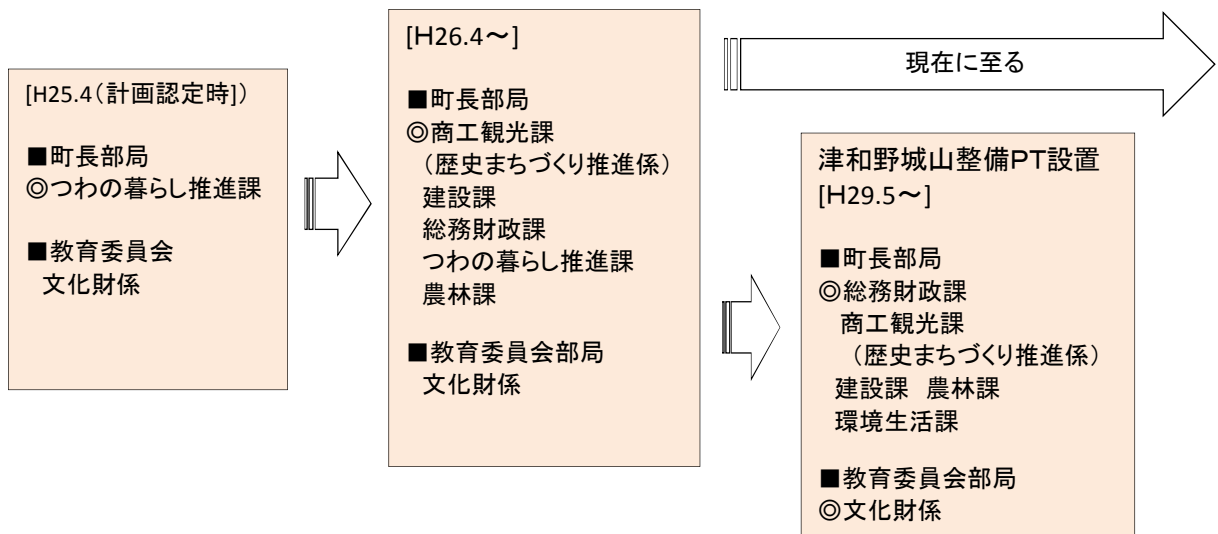
計画に記載している内容
 庁内において、歴史まちづくり推進チームを設置して各課連携して事業を推進する。
 歴史的風致維持向上協議会を立ち上げ、計画変更や事業評価等に対応する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 ○歴史まちづくり推進チーム・・・関係各課と「都市再生整備事業」及び「集約促進景観・歴史的風致形成事業」についての事業進捗について随時協議を行うとともに、各事業の計画変更について協議を行った。
 ○協議会・・・平成30年度の事業の進捗について報告し、意見を聴取した。また、平成29年度の進行管理・評価シートについて内容の協議を行い、修正を行った上で国へ提出した。
 ○津和野城山整備PT・・・関係各課、有識者による協議会を行い、整備構想に基づいて事業を進めた。

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
 ■計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 歴まち事業の推進には、これまでの体制を維持しながら進めているが、個別事業になると関係各課との連携が希薄になっている。課題を持ち寄って内部的に十分検討する機会を持ちたい。また、新たに津和野城山整備PTが設置されたが、事業全体を統括これまでの取り組みを十分にいかし計画的に事業を進めるため、体制の充実、人材の確保・育成などが課題となる。

状況を示す写真や資料等

■歴史町づくりへの全庁的な取り組み(事業担当の推移)



■歴史的風致維持向上協議会の開催(平成30年度事業分)

- <第1回協議会(3/7)>
- ・JR津和野駅周辺整備事業
 - ・サイン整備・照明整備事業について



第1回協議会の様子(3/7)

- <第2回協議会(5/23)>
- ・平成30年度進捗評価事業評価について
 - ・平成31年度事業について



第2回協議会の様子(5/23)

評価軸②
重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	平成30年度
		現在の状況

都市計画と景観計画の普及・啓発	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
-----------------	---

計画に記載している内容
都市計画については、住民等への都市計画の普及・啓発を図りながら、都市計画道路や公園緑地の整備などに取り組む。また、景観計画については、景観計画、景観条例を適正に運用するとともに景観地区や景観重要建造物、景観重要樹木等の指定を検討する。

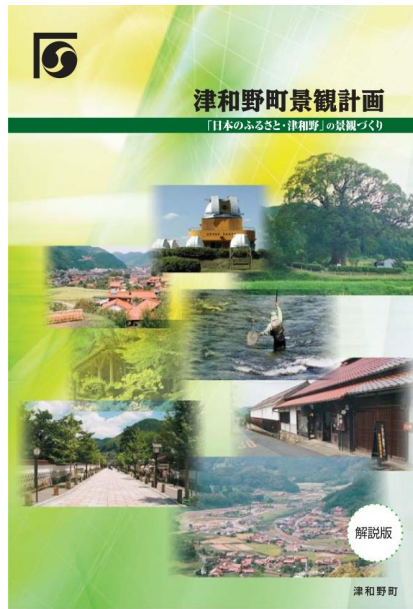
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
(景観計画)平成30年度 法16一届出(当初届出)42件、法16五通知(公共協議)4件

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	町民等関係者に対する周知を継続的に実施する。
--	------------------------

状況を示す写真や資料等

津和野町景観計画



☆住宅の建設、土地の開墾、木や竹の伐採等を行う場合には届出が必要となる場合がありますので、まずは役場へ事前相談を!!

津和野町景観計画の概要

津和野町景観計画は景観法第8条に基づき、地域の景観形成に応じて、区域や良好な景観の形成のための方針、建築物の建築等に対する基準を定めたものです。

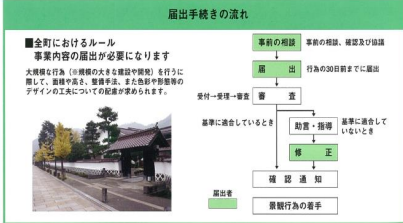
津和野町景観計画

2つの区域

- 景観計画区域(津和野町全域)
- 景観形成地区(津和野町全域のうち、特に良好な景観についてこれを保全し、今後とも良好な景観の形成を図るため、町が独自に指定する地区)

津和野町景観計画の基本理念

景観のための景観づくりから、自然体で参加し、住民のひとりとりが考え、みんなを守り育て、次世代に伝えていく景観づくり、日常の生活の中で、生活に溶け込んだ景観づくりを促していくことを、基本的な取り組みの姿勢・理念とします。



主な届出の必要行為	景観計画区域(津和野町全域)	景観形成地区(町が独自に指定する地区)
建築物(お住まいの住宅、店舗、商業用建築物)の高さ、増改築、形状、外観の変更、色彩の変更、又は撤去等	①高さが1.3mを超えるもの又は建築面積が1,000㎡を超えるもの	①高さが5mを超えるもの又は建築面積が10㎡を超えるもの ②高さが5mを超えるもの又は外観の変更部分の面積の合計が10㎡を超えるもの
工作物(門、塙、柵、金網等)の設置、増改築、形状、外観の変更、色彩の変更又は撤去等	①門、塙、柵、金網等→高さが2mを超えるもの又は長さ5mを超えるもの ②柵壁→高さが2mを超えるもの	①門、塙、柵、金網等→高さが1.5mを超えるもの又は長さ5mを超えるもの ②柵壁→高さが1.5mを超えるもの
屋外における土台、構築物、再生資源、その他の物件の増設	①高さが5mを超えるもの又はその用途に依る土地の面積が1,000㎡を超えるもの	①高さが1.5mを超えるもの又はその用途に依る土地の面積が100㎡を超えるもの
土地の開墾、土石の採取、動物の飼育等の地上での行為の変更又は水面の埋め立て	①面積が9,000㎡を超えるもの	①面積が1,000㎡を超えるもの
木や竹の伐採	①高さが10mを超える木や竹の伐採又は面積が3,000㎡を超える木や竹の伐採 ②森林管理法等を廃止するために必要な木の伐採で面積が3,000㎡を超えるもの	①高さが10mを超える木や竹の伐採又は地上1.5mの高さにおける幹の周囲が1mを超える木の伐採

【良好な景観形成を図る上で、大きな影響を及ぼさない一定規模以下の行為については、届出の適用除外となる行為があります。】

色 彩

景色やけけはけい色彩を選び、落ち着いた色彩を基調とし、周辺景観との調和に配慮すること



景観審議会

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成30年度 現在の状況
藩校養老館保存修理事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成27年度～30年度

支援事業名 街なみ環境整備事業、集約促進景観・歴史的風致形成推進事業

計画に記載している内容 藩校養老館について、柱等が全体的にシロアリ被害を受けるとともに、屋根瓦の割れなどにより雨漏りが発生しているため危険であり、保存修理を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成27年度:実施設計業務(武道場)(街なみ環境整備事業)
 平成28年度:実施設計が完了し、建築基準法第3条の摘要除外を受けるために、島根県の建築審査会に諮った。12月に入札を実施し、平成30年6月までを工期として工事に着手した。(武道場)
 平成29年度:解体調査後の方針決定に時間がかかったことから工事期間を平成30年度末を目処に延長し、保存修理方針を定めて建物の組み立て工事を実施した。また、工事完了後の活用を図るため、「藩校養老館活用計画」の策定に着手した。(武道場)
 平成30年度:年度内に完成させ、その後の活用を図るための整備を実施した。(武道場)御書物蔵および管理棟の実施設計をおこなった。(土蔵等)屋根の葺直しを前提に解体格納し、調査後の方針修正させ工事を実行する予定。(土蔵等)(繰り越し)

進捗状況 ※計画年次との対応

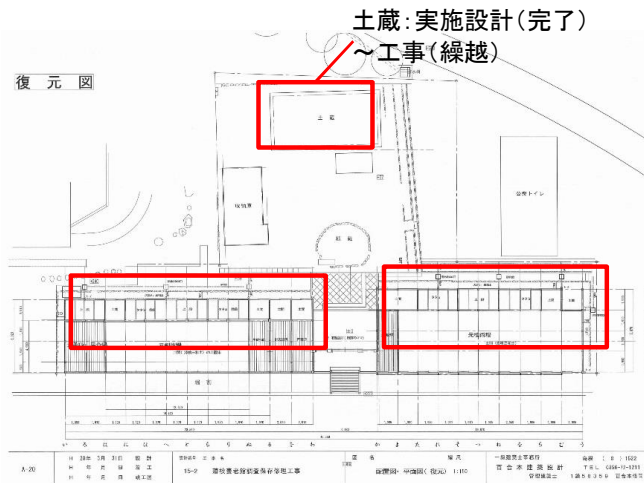
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

土蔵は瓦の葺直しを前提に屋根部等の必要箇所部分のみの解体予定ではあるが、老朽化具合が解体前では分からない部分が多く、工期の検討が発生しうる。
 事業期間延長予定(～令和2年3月31日)

状況を示す写真や資料等

■平成30年度保存修理事業箇所



[事業年度]

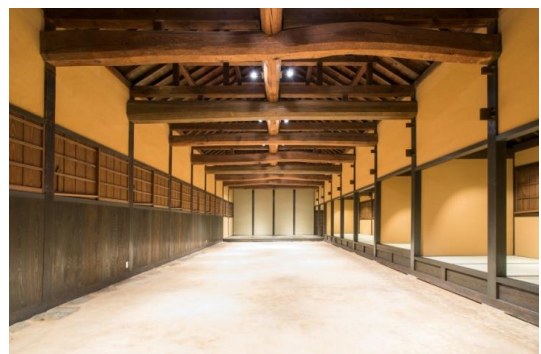
- 平成27～28年度…実施設計業務(武道場)
- 平成28～30年度…保存修理工事(武道場)
- 平成30年度…保存修理・活用(整備)工事(武道場)
- 土蔵等実施設計
- 平成30年度繰越…土蔵等保存修理・活用(整備)



〔解体前写真〕



〔武道場完成写真:12/27撮影〕



〔屋内完成写真:12/27撮影〕

	評価対象年度	平成30年度
項目	現在の状況	

城下町地区照明設備等整備事業

- 実施済
- 実施中
- 未着手

事業期間 平成29～30年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容 ○夜の街の魅力化を図るため、夜間の景観照明計画に基づいて街灯を整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

殿町通りから稲成神社へと続く参道に照明をつけたことにより、より一層津和野の町が幻想的なものとなり、町歩きの安心安全となった。 照明灯30基

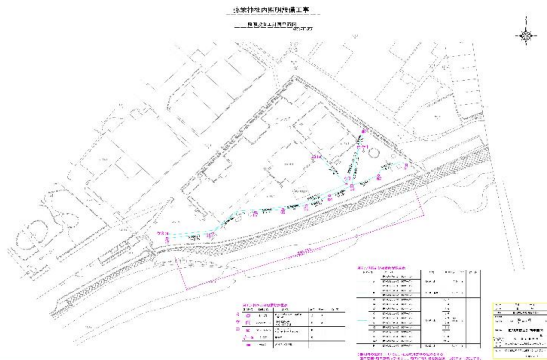
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

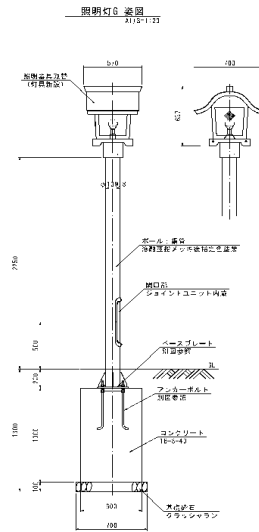
今後、稲成丁河川広場整備及び、町道稲成丁線の舗装美装化を行い、殿町通りからの連続性を図る。

状況を示す写真や資料等

照明灯 弥栄神社:9基
 稲成丁河川広場:6基
 殿町通り:15基



平面図(弥栄神社)



構造図



弥栄神社

項目	評価対象年度	平成30年度 現在の状況
旧城下町等サイン整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 【第Ⅰ期】平成26年度～27年度、【第Ⅱ期】平成30年度～31年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 ○重点区域内(旧城下町、歴史的建造物が集積する区域含む)における案内板、文化財等の説明版、誘導標識、表示板等の整備を行う。
 ○多言語音声設備等についても検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

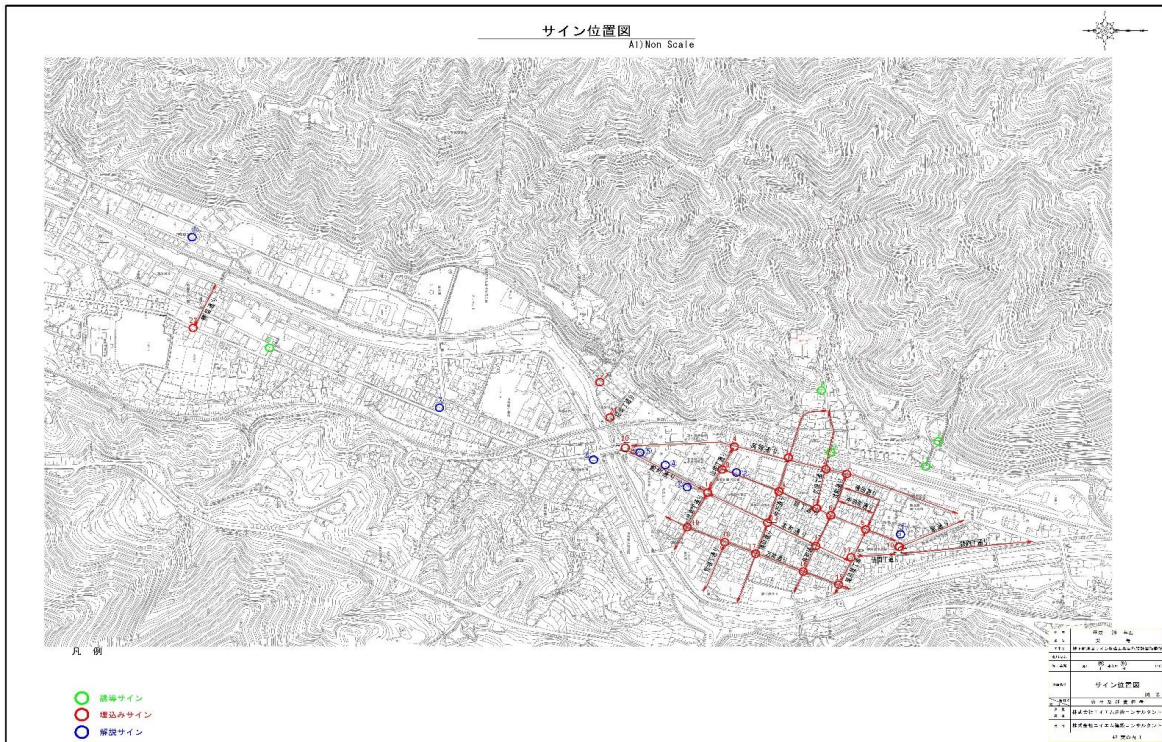
第Ⅱ期については都市再生整備計画事業を活用して以下の事業を実施した。
 サイン 実績50基/全体計画57基
 (計画期間累計) 28年度8基 30年度42基

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

これまでに設置されている老朽化したサインや景観上問題のあるサイン(公私問わず)の撤去方法については今後検討を要す。

状況を示す写真や資料等



誘導(埋込)サイン:29基
 誘導サイン:5基
 解説サイン:8基



[誘導(埋込)サイン]



[誘導サイン]



[解説サイン]

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度
	平成30年度
文化財の復旧(津和野城跡の石垣整備)	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

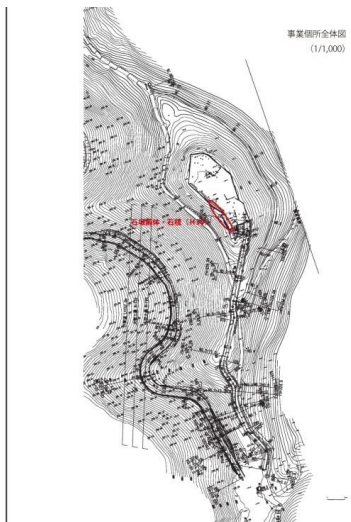
計画に記載している内容 指定文化財については、必要性や緊急性、優先順位を検討しながら、歴史的真正性を損なうことなく、適切な修理及び整備を実施するとともに、住民の理解を得られるよう、公開する機会の確保情報発信に努める。また、未指定・未登録文化財については、必要に応じてその保存対策を検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 平成27年度に出丸石垣修理工事の実施設計をおこない、平成28年度より仮設作業道・仮設遊歩道などの設置工事を施工した後に、10・11面石垣の解体・石積工事に着手した。平成30年度は15面石垣の石垣解体をおこない、根石部分まで解体・発掘調査を実施した後、石積工事を実施した。事業に際しては、整備検討委員会の指導を受け適切に実施した。また、事業期間中に住民への現場公開1回を実施することができた。

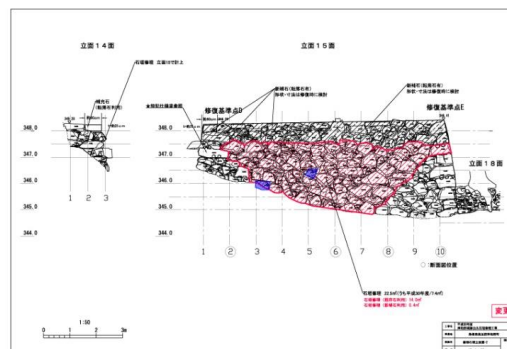
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	今後、石垣解体調査に伴って、新補石材取り替えや根石補強工事などの検討が必要になることが予想される。財政的な面とともに工期の延長に伴う観光客立入制限が長引くなど影響が出る懸念される。

状況を示す写真や資料等

■平成30年度保存修理事業箇所



工事石垣位置図



[石垣解体作業写真:2/23撮影]



[石垣石積写真:3/9撮影]

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
文化財の防災対策(重伝建地区の防災計画の策定)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	指定文化財については、建造物等の防災設備の設置と点検を推進するとともに、指定文化財以外の文化財や文化財の周辺環境に対しては、各地域の防災組織と情報交換を行い、文化財所有者及び地域住民の防災意識を高め、文化財を取り巻く地域ぐるみの防災体制の構築に努める。また、防災だけではなく、防犯対策も必要であり、文化財所有者等への防犯意識の徹底を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
近年、火災のほかに季節風による強風や地震など自然災害による被害が増えていることから、重伝建地区における防災計画の早期策定が求められてきた。町では、平成25年の重伝建の選定後、計画策定に向けての準備を進め、平成28年6月に計画づくりに着手、専門家や地元消防団、地元消防、地域代表からなる防災アドバイザー会議を設置して調査・検討を重ねるとともに、住民アンケートや住民ワークショップ、防災訓練などを実施して平成29年2月に素案をとりまとめた。その後地元説明会やパブリックコメントを実施して、予定通り平成30年3月末に計画を取りまとめた。平成30年度には住民団体の津和野まちなみ保存会が自主的に防災訓練(携帯型消火スプレー、訓練用消火器)を実施し、文化財収蔵箇所については防犯のための施錠見回りを行っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	計画策定による調査結果により、重伝建地区が決して火災や地震等に強いエリアではないことが判明した。防火については防火水槽の設置や用水路の整備、建物の不燃化、地震に対しては個々の建物の耐震化につとめる必要が指摘された。また、日頃の地域住民の防災・防犯意識の高揚と、空き家の有効活用を図るため防災センターを整備することも急がれる。		
状況を示す写真や資料等			
			
まちなみ保存会防災訓練 3/26実施		まちなみ保存会防災訓練 3/26実施	

		評価対象年度	平成30年度
項目		現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱い		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	旧城下町一体においては城下町遺跡(近世)、大陰遺跡(縄文～奈良・平安)、高田遺跡(縄文～近世)、喜時雨遺跡(旧石器、弥生～近世)などが「周知の埋蔵文化財包蔵地」として一体的に保護を図っている、こうした包蔵地における開発については、関係機関や町内の連携体制に基づき、適切に保存を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重点区域の全域が津和野城下町遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)になっていることから、道路河川整備や住宅の新築及び建替等の開発事業が計画された際は、文化財保護法に基づき埋蔵文化財の取扱いについて調整を行っている。調整の結果、やむなく埋蔵文化財に手が入る場合においては、遺跡の記録保存等に関する調査や行政指導を行っている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		周知の埋蔵文化財包蔵地における開発においては、事前に開発計画の把握が必要である。基本的には、開発する側の申請に基づいて計画を知るため、常日頃より埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて住民または開発業者に対して広く周知を行っていく。	
状況を示す写真や資料等			



個人住宅外塀建設に伴う確認調査

撮影日: H30年10月



個人住宅建設に伴う確認調査

撮影日: H30年11月



個人邸新築工事に伴う事前の試掘確認調査

撮影日: H30年11月



町雇用促進住宅建設に伴う試掘調査

撮影日: H31年3月

評価軸⑤

効果・影響等に関する報道

		評価対象年度	平成30年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等	
(1)「藩校養老館」完成	平成31年2月28日	山陰中央新報社	
(2)「藩校養老館」竣工式	平成31年4月6日	山陰中央新報社	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重点地区における歴史まちづくりに関する取り組みの成果として、上記を含め新聞報道、雑誌、テレビ等で紹介された。今後事業の進展による成果をさらにPRしていくこととしている。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	県指定史跡である「養老館」が竣工したことで、日本遺産事業による情報発信事業や、文化財の活用によるイベントなどの開催などの取り組みを充実したい。また、今年から列福調査に入ることから外国人観光客が増加することが見込まれる。課題である宿泊者の増加につなげるなど、体験メニューの充実などにより滞在時間を延ばすための取り組みが必要である。		
状況を示す写真や資料等			
著作権保護のため新聞記事は掲載しない			

項目

歴史文化を生かした観光振興等による地域の活性化

計画に記載している内容 文化財の所有者や関係団体と連携し、文化財や歴史的風致の保存とあわせて、その価値や魅力を引き出すことを意図しながら、観光振興など地域の活性化にも生かしていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

津和野地域文化協会による文化祭の開催、日本遺産センターでの「津和野の幕末・維新を歩く」などのイベントを開催した。こうした取り組みにより、津和野町に興味を持ってもらいリピーターを増やしたい。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

観光客の入込数は30年度は減少している。しかし日本遺産センターは4年目に入り、来館者数が6万人を超え、様々なイベントを企画し盛況を得ている。また宿泊者数に変動はなく、外国人宿泊者数は増加している。滞在時間の延長を考えていく必要がある。

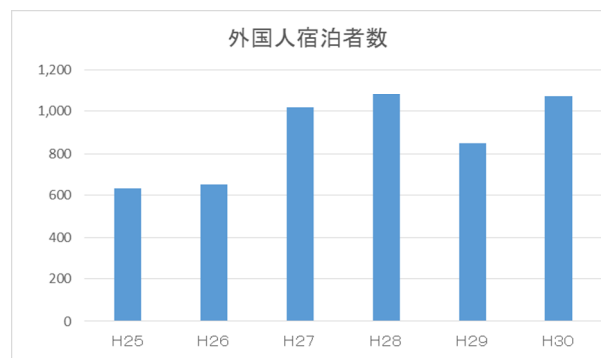
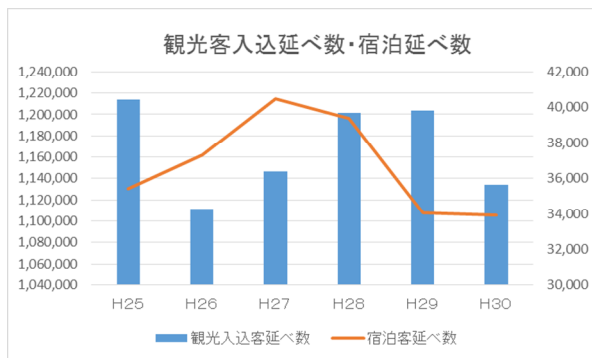
状況を示す写真や資料等



津和野の幕末・維新を歩く 11/16～17開催



津和野地域文化協会による文化祭 11/3～4開催



評価対象年度	平成30年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時: 歴史的風致維持向上協議会: (第1回)平成31年3月7日実施 (第2回)令和元年5月23日実施	
(コメントの概要)	
(第1回)平成31年3月7日実施 協議会議題 1. 平成30年度事業について (1)JR津和野駅周辺整備 (2)サイン整備事業 (3)照明整備事業 (4)藩校養老館整備事業 <意見> 1. 平成30年度事業について ・駅構内のバリアフリー化についてJRと協議を進めるべき ・トイレ、展望台のバリアフリーについては段差等ないよう最善をつくしてほしい ・サイン設置は違和感のあるものがあつた。今後設置する場合は要相談 ・殿町からの照明の連続性がありよいと思う ・養老館の活用について、魅力のあるものに	
(第2回)令和元年5月23日実施 協議会議題 1. 事業の進捗評価について 2. 平成31年度事業について <意見> 養老館の活用について十分な協議をしてほしい 整備したサインの内容をパンフレット等と連動すべき 照明について、整備するだけでなく、今後どういう方法で夜のまち歩きを活発にしていくかを考えるべき	
(今後の対応方針)	
養老館の活用方法については今後検討していく。 サイン及び照明については、今後ソフト面を強化していくことで、まち歩きの向上に努める。	